ができるよう指導する。

ア　造形の要素の働きを理解すること。

イ　造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解すること。

3　内容の取扱い

(1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については，相互の関連を図り，特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにする。

(2) 生徒の特性，学校や地域の実態を考慮し，内容の「A表現」については(1)，(2)又は(3)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。また，内容の「A表現」の(1)については，絵画と彫刻のいずれかを選択したり一体的に扱ったりすることができる。

(3) 内容の取扱いに当たっては，「美術Ⅰ」の3の(3)から(10)までと同様に取り扱うものとする。

第6　美術Ⅲ

1　目　標

美術の創造的な諸活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，美的体験を豊かにし，生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに，意図に応じて表現方法を追求し，個性を生かして創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ，独創的な表現の意図と創造的な工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり，自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み，生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに，感性と美意識を磨き，美術文化を尊重し，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2　内　容

A　表　現

表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 絵画・彫刻

絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想

(ｱ) 自然や自己，社会などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから独創的な主題を生成し，主題に応じた表現の可能性について考え，個性を生かして創造的な表現の構想を練ること。

イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

(ｱ) 主題に合った表現方法を追求し，個性を生かして創造的に表すこと。

(2) デザイン

デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　目的や機能などを考えた発想や構想

(ｱ) 目的や条件などを基に，デザインの社会的な役割について考察して独創的な主題を生成し，主題に応じた表現効果を考え，個性を生かして創造的な表現の構想を練ること。

イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

(ｱ) 主題に合った表現方法を追求し，個性を生かして創造的に表すこと。

(3) 映像メディア表現

映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　映像メディアの特性を踏まえた発想や構想

(ｱ) 映像メディアの特性を生かして独創的な主題を生成し，主題に応じた表現の可能性や効果について考え，個性を生かして創造的な表現の構想を練ること。

イ　発想や構想をしたことを基に，創造的に表す技能

(ｱ) 主題に合った表現方法を追求し，個性を生かして創造的に表すこと。

B　鑑　賞

鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞

(ｱ) 造形的なよさや美しさ，目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の主張，作品と時代や社会との関わりなどについて考え，見方や感じ方を深めること。

イ　生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞

(ｱ) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから伝統や文化の価値を感じ取り，国際理解に果たす美術の役割や美術文化の継承，発展，創